


※注意：このシートは横浜市の  
ホームページ等で公開されます。

No. 43

まちづくりコーディネーター 登録シート（閲覧用）①

フリガナ	ヤマギシ ツトム			
氏名	山岸 勉			
派遣希望区	<input checked="" type="checkbox"/> 市内全域 <input type="checkbox"/> (    ) <input type="checkbox"/> (    )			
支援専門分野（注1）		支援専門分野の内容		
ルール又はプランづくり等	<input type="checkbox"/>	地域まちづくりプラン    地域まちづくりルール 地区計画    建築協定    景観計画    景観協定 まち普請事業 <u>その他地域のまちづくりに関する計画</u>		
市街地開発事業等		土地区画整理事業    市街地再開発事業		
防災まちづくり等	<input type="checkbox"/>	横浜市の制度を活用した地震火災対策 <u>防災マップの作成・活用</u> <u>多世代向け防災イベントの企画・運営</u> 密集市街地の改善		
その他得意とする分野（複数選択可）	地域福祉（高齢者・障がい者・子育て支援等）    防犯 <u>水・緑・環境</u> <u>歴史・文化・アート</u> 空き家・空き地の利活用    商店街活性化 狭あい道路整備    耐震改修    共同建替 <u>コミュニティの再生</u> 地域の活動拠点運営    地域公共交通    ICT・WEBの活用 <u>その他</u> （合意形成    参加型計画    ）			
支援専門分野に関する支援の実績等	支援専門分野の内容・支援可能なテーマ	地区名	時期	支援内容等 ※ 支援の成果も含め、できるだけ具体的にお書きください。 (200文字以内かつ9行以内)
	防災マップの作成・活用	秋田県にかほ市全域	平成24年4月～25年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>最大クラス（県公表）の津波災害に対し、津波避難シミュレーションを実施、避難困難地域や同困難者数を推計した上で、避難先や避難経路等を反映した津波避難計画図（案）を策定。</li> <li>地域の実情・要望を的確に反映するため、地域防災リーダーを対象にワークショップを実施、地域からの視点を避難計画に反映しました。</li> <li>自助の意識と住民同士のつながりが深まり、地域力の底上げにもつながりました。</li> </ul>
	その他地域のまちづくりに関する計画	全国	平成17年4月～令和2年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>（一社）建設コンサルタンツ協会が公募した「参加型計画専門委員会」の委員として、社会資本整備等における市民参加のあり方とコンサルタントの対応について研究活動、セミナーの開催等を行ってきました。</li> <li>私は平成30年10月に講習会「社会資本整備事業における参加型の新たな技術と役割」の一つの研究成果として、近年注目される社会的価値評価の「SROI」を事例として報告しました。</li> </ul>

（注意）支援専門分野は、横浜市まちづくりコーディネーター等及びまちづくり支援団体の登録等に関する要綱の別表第1を参照してください。

※注意：このシートは横浜市の  
ホームページ等で公開されます。

まちづくりコーディネーター 登録シート（閲覧用）②

支援専門分野に関する支援の実績等	支援専門分野の内容・支援可能なテーマ	地区名	時期	支援内容等 ※ 支援の成果も含め、できるだけ具体的にお書きください。 (200文字以内かつ9行以内)
	その他地域のまちづくりに関する計画	東京都昭島市 昭島（多摩川左岸）地区	平成14年4月 ～15年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>多摩川上流での「水辺の楽校」づくりを公募による市民主体の委員会形式で行ないました。</li> <li>私は、河川管理者である国土交通省京浜河川事務所と委員会の間でコーディネーターとして、かつ委員会の下部組織である協議会のプランナーとして当該組織を運営しました。</li> <li>計画づくりの過程で出会った地域リーダーは大きな推進力になりました。キーパーソンを見出すことの重要性を気づかされました。</li> </ul>
	その他地域のまちづくりに関する計画	全国	平成6年11月 ～8年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>[当時]（財）河川環境管理財団出向時、河川管理の新たな仕組みづくりを研究しました。</li> <li>ケーススタディとして、京浜河川事務所管理の鶴見川などを対象に、NPO や自治体職員、学識経験者、国土交通省技官等により組織された委員会・協議会の事務局を運営しました。</li> <li>その成果である「<u>いい川</u>づくり」の理念、仕組みは現在までつながる「いい川づくり」の活動に結実しています。</li> </ul>
	その他地域のまちづくりに関する計画	全国	昭和63年4月 ～平成4年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりと一体となった良好な水辺空間の形成を目的に、「ふるさとの川モデル事業」が昭和62年度に創出されました。</li> <li>私は [当時]（財）リバーフロント整備センターから委託を受け、静岡県管理の巴川（静岡市・清水市）などで、「川」を軸に「まちづくり」と整合をとった整備計画を策定しました。</li> <li>本事業は、現在の「かわまちづくり」に連なっています。</li> </ul>

自身の考えるコーディネーターの役割とまちづくりのポイント（500文字以内）

・私の考えるコーディネーターとは、市民や地域団体、民間事業者等のプレーヤーと社会インフラを担う行政の間を「とりもつ」役割です。一つ目は、プレーヤー間の調整・マネジメントを行い、行政と各種調整を行う、いわばアドバイザー的な役割です。二つ目は、事業に意欲的なプレーヤーから最適なプレーヤーを選定しマネジメントする、いわばプロデューサー的な役割です。

（以上の考え方は、令和6年1月16日開催の参加型計画専門委員会講習会「参加型まちづくりの現状と未来への展望」を参考としました）

・まちづくりのポイントは、地域に継承されてきたその土地ならではの「ひと」「もの」「こと」（人、事物、地理・地形、言い伝え・出来事等）を地域の方々と共に発見し、これらを自分達の世代だけで使い尽くすのではなく、未来の世代へと引き継いでいくしくみを、地域の方々から知恵を絞って考え出すきっかけや場づくり、人づくりを、地域の方々とともに創り出せるかにかかっていると思います。最後に、かつて神奈川県のある自治体で聞き取りを行った際、「市民参加は住民ニーズの宝庫」という金言をいただきました。この言葉を糧に、私は日々の仕事に取り組んできました。

必要に応じて資料を A4 判 1 ページまで添付できます。

